

平成 30 年度情報公開

学校法人 京都西山学園

京都西山短期大学

1. 教育研究上の基礎的な情報

(1) 学科・専攻の名称及び教育研究上の目的

仏教学科

本学は仏教学科の単科大学であり、その中に仏教学専攻と仏教保育専攻の両専攻を設置している。さらに仏教学専攻には仏教コース、ライフクリエイトコース、国際経営コースの3コースを設け、仏教保育専攻の保育幼児教育コースを加えた4コースに分かれている。これらのコースで学ぶ内容や進路は次の通りである。

<仏教コース>

仏教コースでは、「仏教精神を通して社会に貢献できる人材の育成」を目標として掲げている。具体的には、次のような目標を定めている。

- ① 仏教の知識を深め、建学の精神である「智慧」と「慈悲」の理解。
- ② 釈尊以来のインド・中国・日本の浄土教の歴史と思想の研究。
- ③ 西山浄土宗・浄土宗西山禅林寺派・浄土宗西山深草派各派の僧侶資格取得。

<ライフクリエイトコース>

ライフクリエイトコースでは、「社会で活躍するためのスキルである対人関係能力を身につけること」を目標に掲げている。具体的には、次のような目標を定めている。

- ① コミュニケーション力と、他者を敬い、心配りができるヒューマンスキルの習得。
- ② 現代の情報社会で役立つ、オフィス系ソフトに関するパソコンスキルの習得。
- ③ 医療事務や調剤事務に関する資格取得をはじめ、事務職で活かせる実務スキルの習得。

<国際経営コース>

国際経営コースでは、「国際社会で活躍できる人材の育成」を目標に掲げている。具体的には、次のような目標を定めている。

- ① 四年制大学への編入学や進学、就職に必要な日本語能力の修得。
- ② 経営学、経済学の学びを通じた経済のグローバル化に対応し得る人材の育成。
- ③ 異文化理解に基づく日本と母国の懸け橋となる人材の育成。

◆仏教保育専攻

<保育幼児教育コース>

保育幼児教育コースの目標として、「他者に対して慈悲の心で接することのできる保育者の育成」を挙げている。それは建学の精神・学位授与の方針に基づいたものである。以下のような目標を定めている。

- ① すべてのいのちを尊重した保育の理解と、発達段階に応じた保育技術の習得。
- ② 人としての心の広さ・深さ・温かさを備えあらゆる状況に対応できる保育者の養成。
- ③ 地域社会からのさまざまな要請に応え、積極的に社会の発展に貢献できる保育者の養成。

(2) 専任教員数

学 科	専 攻	教 授	准教授	講 師	小 計	合 計
仏教学科	仏教学	3	0	4	7	14名
	仏教保育	2	2	3	7	

(3) 校地・校舎等の施設その他の学生の教育研究環境

[キャンパス紹介 | 京都西山短期大学](#)

[本学までのアクセス](#)

(4) 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用

仏教学専攻		仏教保育専攻	
入学金	200,000円	入学金	200,000円
授業料	760,000円 (年額)	授業料	760,000円 (年額)
施設設備費	200,000円 (年額)	施設設備費	300,000円 (年額)
学友会費	5,000円 (年額)	学友会費	5,000円 (年額)
保護者会費	10,000円 (年額)	保護者会費	10,000円 (年額)
初年度合計	1,175,000円	初年度合計	1,275,000円
但し、下記の通り分納することができます。		但し、下記の通り分納することができます。	
入学金	200,000円	入学金	200,000円
授業料	380,000円 (春学期)	授業料	380,000円 (春学期)
施設設備費	100,000円 (春学期)	施設設備費	150,000円 (春学期)
学友会費	5,000円 (年額)	学友会費	5,000円 (年額)
保護者会費	10,000円 (年額)	保護者会費	10,000円 (年額)
初年度春合計	695,000円	初年度春合計	745,000円
(秋学期分480,000円は10月に分納していただきます。)		(秋学期分530,000円は10月に分納していただきます。)	
		※上記以外に実習費が別途必要になります。	

※仏教保育専攻の場合は、保育・教育実習等にかかわる費用が別途必要となります。

※社会人入試での入学の場合は授業料減免の制度があります。詳しくは入試課までお問い合わせください。

※外国人留学生には授業料減免の制度があります。詳しくは国際交流センターまでお問い合わせ下さい。

2. 修学上の情報

(1) 入学者に関する受入方針

<p>仏教学専攻</p>	<p>【仏教コース】 本学の建学の精神と教育理念をよく理解して、意欲と主体性を持ち、さまざまな課題に向けて自ら考え行動できる次のような学生を求める。</p> <p>① 本学の建学の精神である「智慧と慈悲」を理解し、豊かな人間性と大きな社会的視野を有する者。</p> <p>② 仏教及び浄土教の思想についての幅広い知識を基に、自ら考え、表現する技術を身につけ、社会的責任を自覚し行動できる能力を有することを旨とする者。</p> <p>「ライフクリエイトコース」 本学の建学の精神と教育理念をよく理解して、意欲と主体性を持ち、さまざまな課題に向けて自ら考え行動できる次のような学生を求める。</p> <p>① 社会で活躍するためのヒューマンスキル・実務スキルを習得すること、また各種諸資格を取得することに向けて、意欲を持っている者。</p> <p>② 学んだ知識を自らの将来に活かすため、さらに追求・発展させる意欲と向学心に富んだ者。</p> <p>【国際経営コース】 本学の建学の精神と教育理念をよく理解して、意欲と主体性を持ち、さまざまな課題に向けて自ら考え行動できる次のような学生を求める。</p> <p>① 進学・就職に必要な日本語能力の向上に意欲を持っている者。</p> <p>② ビジネスに関する知識や技能の習得に意欲を持っている者。</p> <p>③ 国際社会に貢献するため自身の成長を望む者。</p>
<p>仏教保育専攻</p>	<p>【保育幼児教育コース】 本学建学の精神と教育理念をよく理解して意欲と主体性を持ち、さまざまな課題に向けて自ら考え行動できる次のような学生を求める。</p> <p>① 保育者として他者に対して、思いやりの気持ちを持ち、自らの心身の健康管理ができる者。</p> <p>② 保育者となるための知識と技能の習得に向けて常に学ぶ意欲と向上心を持った者。</p> <p>③ 将来保育の仕事に就き、子どもへの愛情溢れる保育者になりたいと考えている者。</p>

(2) 教員組織等の状況

専任教員の学位、業績

[教員紹介 | 京都西山短期大学](#)

専任教員数 (職種・年齢・性別)

	～29			30～39			40～49			50～59			60～69			70代以上			計
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
教授	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	3	0	3	0	0	0	5
准教授	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2
講師	0	0	0	0	0	0	2	3	5	1	1	2	0	0	0	0	0	0	7
計	0	0	0	0	0	0	2	4	6	3	2	5	3	0	3	0	0	0	14

専任教員と非常勤教員の比率

	専任教員				非常勤 講師	占有率 (%)	
	教授	准教授	講師	計		専任	非常勤
仏教学科	5	2	7	14	34	29.2	70.8

教員一人当たりの学生数及び収容定員充足率

	専任教員				学生	教員一人当たり の学生数	収容定員 充足率
	教授	准教授	講師	計			
仏教学科	5	2	7	14	180	12.9人	90.0%

(3) 入学者数、収容人数、在学者数、卒業、(修了)者数、進学者数、就職者数

	入学者数 (平成30年度)	収容定員	在学者数 (平成30年度)	卒業者数 (平成29年度)	進学者数 (平成29年度)	就職希望者数 (平成29年度)	就職者数 (平成29年度)
仏教学専攻	73	100	120	32	10	22	14
仏教保育専攻	22	100	60	27	0	26	26
計	95	200	180	59	10	48	40

過去3年間の入学者数推移

仏教学科	平成28年度	平成29年度	平成30年度
仏教学専攻	41	58	73
仏教保育専攻	29	38	22
計	70	96	95
内 社会人学生	1	3	1
内 留学生	33	41	62

平成29年度退学・除籍者数、中退率及び留年者数

退学・除籍	中退率	留年者
3	1.8%	0

(4) 学修の成果に係る評価

成績評価は、各科目に定められている単位数に相当する学修成果の有無やその内容を評価するために行われます。100点満点法で評価され、60点以上の評価が得られた場合にのみ所定の単位が認定される。

(7) 成績評価の方法

成績評価は、次の4種類の方法を基本として、これらの中、1つまたは2つ以上を合わせた評価がなされる。基本的に各科目の成績評価の方法は、その科目の授業担当者に委ねられている。なお、評価方法等、具体的内容についてはシラバスに明示されている。

1. 筆記試験による評価
2. レポート試験による評価
3. 実技試験による評価
4. 授業での取組状況や平常テストなど上記試験による評価とは別に、授業担当者が独自に設定する方法による評価

(4) 成績評価の基準

成績評価は、100点を満点とし60点以上を合格、それに満たない場合は不合格とする。一度合格点を得た科目(=既得科目)を再度履修し改めて成績評価を受けることはできない。履修登録した科目の試験を受験しなかった場合、その試験の評価はK表記となる。ただし、このような場合でも、授業担当者が定めた評価方法により試験の評価以外により評価される場合がある。段階評価と評点の関係は、次のとおりとします。

秀(100~90)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)

学業成績証明書は、すべて段階評価で表示し、不合格科目は表示しない。

学業成績表は、春学期(前期)分を8月下旬、秋学期(後期)分を2月下旬に配付する。

(ウ) 必修・選択科目別取得必要単位数及び取得可能学位

仏教学科仏教学専攻、仏教保育専攻とも専門基礎科目6単位(必修)、専門教育科目(選択)より14単位以上及び基礎科目(選択)より10単位以上を含み、総計62単位以上を2か年にわたって取得した者は、短期大学士を得ることが出来る。

なお、保育士資格を得ようとする者は、児童福祉法施行規則第6条の2第1項の「指定保育士養成施設指定基準」に定める所定の単位の修得が、また、幼稚園教諭二種免許を得ようとする者は、学校教育法第69条の2第7項に定める短期大学士の称号を有し、「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」「教科に関する科目」「教職に関する科目」に定める所定の単位の修得しなければならない。

(5) 学生の修学、進路選択及び心身の健康等に関する支援

就職支援

本学では学生支援センターが中心となり、教学部、各専攻、国際交流センターとの緊密な連携を通じて、学生支援の活動を展開している。生き方の哲学体系でもある仏教を建学の精神とする本学では、「働く意義は何か？」という根源的な問いに照らし、学生それぞれの動機付けを明確にさせ学生のキャリア形成を支援している。

つまり本学における教育活動と一体のものとして、入学から卒業にいたるまで、さまざまな形での学生支援を位置づけ、これに取り組み、進路調査アンケート、全学生の面談、進学ガイダンス、就職マナー講座、先輩留学生を招いての留学生ガイダンス、基礎ゼミナール、総合ゼミナールを実施し、自分の将来を考える会を開催して、学生それぞれの志望動向と資質に合わせたキャリア形成支援をおこなってきた。

さらに、一昨年度から卒業生の進路先の情報提供にかかわるアンケート調査を実施している。回収率が低いことなど課題があるものの、継続して調査をすることで、卒業生の動向を把握し、卒業生の進路開拓と本学の教学システム改革に資するための情報収集をしたいと考えている。

[近年の就職実績/最近の就職先](#)

進学支援

本学では短期大学の課程に続き、学生の資質を伸長し、進路開拓の可能性をもたせるため、大学進学を積極的に推進している。

本学に指定校推薦枠をうけている大谷大学、追手門学院大学、佛教大学、花園大学、種智院大学、京都光華女子大学、京都ノートルダム女子大学などの入試担当者を招き、それぞれ進学先のカリキュラム紹介や進路先についての説明を受けている。また、留学生を中心に進路希望者の多い龍谷大学国際学部は別枠で進学ガイダンスを実施している。

個別のガイダンスを通じて、指定校推薦の出願方法や、受験対策をおこなっていた。留学生に対しては、国際交流センターが中心となり、日本語文章指導などの学習支援を充実させ、さらに日本語能力の向上をはかっている。

就職を希望する留学生に対しては、適格な情報収集に努め、安易な進路選択から就職が全うできず、不法滞在につながらないようにハローワーク京都の留学生支援センター等と連携し、学生各人にふさわしい就職となるように努めている。

また、留学生に関して、英語能力の向上に努め、進路選択の幅を広めるよう、カリキュラムの充実と学習の機会の拡充に努めたい。さらに日本語能力試験や日本留学試験、そして英語能力の測定試験であるTOEIC、TOEFLの受験を促し、能力の向上を図りたい。

[近年の編入実績/最近の編入先](#)

キャリア形成支援

キャリア形成支援に関して言えば、専門知識をもった職業人養成という点にとどまらず、対話を通じて、これまでの自己をふりかえり、就活プランの立案、フィードバックを意識した総合ゼミナールの運営が必要となっている。

また、学生の自己肯定感を高め、コミュニケーション能力を開発するための職員の指導・対応が大切である。いわば就活をともに考える伴走者としての支援体制の強化が本学における喫緊の課題であ

る。

短期大学では学生への教育とともに、学生生活に対する幅広い支援がもとめられている。学生支援は、学生の本分である学習の活性化を促すと同時に、個性豊かな人間性を涵養する上で不可欠なものであり、入学前から卒業にいたるすべてのプロセスにおいて、適切な措置が講じられなければならない。

このような観点から、本学では学生支援センターを中心にして①学生のキャリア形成支援、②生活・学習両面にわたる支援、③大学編入に焦点をあてた日本語教育、④進学・就職にかかわる情報提供と面接をあわせたガイダンス等に取り組んでいる。

学生相談

学生と教職員との対話、懇話の場として、また、学生生活上、悩みや問題ある学生の相談指導を行うために設置しており、専任カウンセラーと臨床心理士教員を学生の相談員として対応指導を行っている。

平成26年度より相談室企画として定期的に月に一度、「学習ピア・サポート・デイ」を設けている。基礎学力が必要とされる学生や就学上に悩みのある学生が自分の資質に気づき、早期に対処し、充実した学生生活を過ごす学力を得られることを目的に実施している。

相談員は参加する学生に対して、学習を話題にした対話を意図的に行っている。これはノートの取り方、学習資料の整理の仕方、期日までの遂行課題等を計画的に実施する方法などを苦手としており、能力を発揮できない学生のために、単位を落とすことのないようにという願いをもってこのことを行っている。この企画は発達障害の一面を有する学生や基礎学力に問題ある学生にも大切な支援対応指導と考えている。障害者差別解消法が施行されたことにより、本学でも入学者が多くなると考えられる発達障害学生やグレーゾーン学生への対応になればと考え開催している。

グレーゾーン学生の相談があり、相談員が話題提供することで初めて学習への意識を持てる学生、単位を落としてから気が付く学生がいることなどが明らかになってきた。したがって、ゼミナール担当教員とも連携体制をとり指導を行っている。

また、平成27年度からは学生支援センターの「自分の将来を考える会」で、自らの課題、目的を持った学生が積極的に、学生相談室の活用をすすめている。学生支援センター教職員とも連携指導を行っている。相談学生が短大に来ることが楽しく、充実したキャンパス・ライフを過ごせるよう、人間関係のみならず、学習上の不安の解消をはかりたい。

(6) 講義内容

平成 30 年度 開講科目とその内容
[平成 30 年度シラバス](#)

3. 学校法人京都西山学園 財務情報

財 産 目 録

I 資産総額	4, 660, 818, 995	円
内 基本財産	3, 749, 547, 709	円
運用財産	911, 271, 286	円
II 負債総額	432, 628, 261	円
III 正味財産	4, 228, 190, 734	円

区 分	金 額		
資産額			
1 基本財産			
土地	40,641	m ²	1,496,796,285 円
建物	22,609	m ²	1,907,224,587 円
図書	82,242	冊	215,830,947 円
教具・校具・備品			40,096,640 円
その他			89,599,250 円
2 運用財産			
現金預金			396,959,333 円
その他			514,311,953 円
資 産 総 額			4,660,818,995 円
負債額			
1 固定負債			
長期借入金			95,032,000 円
その他			76,435,500 円
2 流動負債			
短期借入金			22,496,000 円
その他			238,664,761 円
負 債 総 額			432,628,261 円
正味財産（資産総額－負債総額）			4,228,190,734 円

貸借対照表

平成30年3月31日

(単位 円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	4,160,141,131	4,127,547,839	32,593,292
有形固定資産	3,749,547,709	3,817,472,497	△67,924,788
土地	1,496,796,285	1,496,796,285	0
建物	1,907,224,587	1,999,655,735	△92,431,148
その他の有形固定資産	345,526,837	321,020,477	24,506,360
特定資産	409,526,500	309,052,500	100,474,000
その他の固定資産	1,066,922	1,022,842	44,080
流動資産	500,677,864	547,589,231	△46,911,367
現金預金	396,959,333	457,619,981	△60,660,648
その他の流動資産	103,718,531	89,969,250	13,749,281
資産の部合計	4,660,818,995	4,675,137,070	△14,318,075

負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	171,467,500	166,217,103	5,250,397
長期借入金	95,032,000	117,528,000	△22,496,000
その他の固定負債	76,435,500	48,689,103	27,746,397
流動負債	261,160,761	274,474,793	△13,314,032
短期借入金	22,496,000	26,396,000	△3,900,000
その他の流動負債	238,664,761	248,078,793	△9,414,032
負債の部合計	432,628,261	440,691,896	△8,063,635

基本金の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
第1号基本金	6,881,368,798	6,836,444,210	44,924,588
第2号基本金	400,000,000	300,000,000	100,000,000
第3号基本金			
第4号基本金	107,000,000	107,000,000	0
基本金の部合計	7,388,368,798	7,243,444,210	144,924,588

繰越収支差額の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
年度消費支出準備金			
翌年度繰越消費支出超過額	△3,160,178,064	△3,008,999,036	△151,179,028
繰越収支差額の部合計	△3,160,178,064	△3,008,999,036	△151,179,028
科 目	本年度末	前年度末	増 減
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	4,660,818,995	4,675,137,070	△14,318,075

資金収支計算書

平成 29 年 4 月 1 日から

平成 30 年 3 月 31 日まで

(単位 円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒納付金収入	928,440,000	927,682,500	757,500
手数料収入	13,220,000	14,383,629	△1,163,629
寄付金収入	16,650,000	16,331,960	318,040
補助金収入	631,237,000	641,581,409	△10,344,409
国庫補助金収入	48,942,000	48,942,000	0
地方公共団体補助金収入	582,295,000	592,639,409	△10,344,409
その他補助金収入	0	0	0
資産売却収入	0	0	0
事業収入	35,522,000	37,232,576	△1,710,576
受取利息・配当金収入	254,000	166,536	87,464
雑収入	64,412,000	67,162,784	△2,750,784
借入金等収入	30,000,000	30,000,000	0
前受金収入	132,750,000	146,726,600	△13,976,600
その他の収入	76,384,073	73,354,548	3,029,525
資金収入調整勘定	△254,848,350	△252,179,444	△2,668,906
前年度繰越支払資金	457,619,981	457,619,981	
収入の部合計	2,131,640,704	2,160,063,079	△28,422,375
支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	980,476,000	958,426,091	22,049,909
教育研究経費支出	565,070,000	536,868,824	28,201,176
管理経費支出	100,461,000	90,529,619	9,931,381
借入金等利息支出	2,510,000	2,466,409	43,591
借入金等返済支出	56,400,000	56,396,000	4,000
施設関係支出	8,250,000	8,230,140	19,860
設備関係支出	39,228,000	41,723,567	△2,495,567
資産運用支出	100,500,000	100,474,000	26,000
その他の支出	52,005,574	51,207,266	798,308
資金支出調整勘定	△76,457,791	△83,218,170	6,760,379
翌年度繰越支払資金	303,197,921	396,959,333	△93,761,412
支出の部合計	2,131,640,704	2,160,063,079	△28,422,375

事業活動収支計算書

平成 29 年 4 月 1 日から
平成 30 年 3 月 31 日まで

(単位 円)

教育活動収支			
事業活動収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒納付金	928,440,000	927,682,500	757,500
手数料	13,220,000	14,383,629	△1,163,629
寄付金	9,650,000	9,643,960	6,040
補助金	631,237,000	641,371,409	△10,134,409
国庫補助金	48,942,000	48,942,000	0
地方公共団体補助金	582,295,000	592,429,409	△10,134,409
その他補助金	0	0	0
付随事業収入	35,522,000	37,232,576	△1,710,576
雑収入	64,412,000	67,157,689	△2,745,689
教育活動収入計	1,682,481,000	1,697,471,763	△14,990,763
事業活動支出の部			
人件費	984,020,000	961,471,376	22,548,624
教育研究経費	684,670,000	644,857,353	39,812,647
管理経費	108,930,000	97,202,337	11,727,663
徴収不能額等	0	1,576,016	△1,576,016
教育活動支出計	1,777,620,000	1,705,107,082	72,512,918
教育活動外収支			
事業活動収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
受取利息・配当金	254,000	166,536	87,464
その他の教育活動外収入	0	0	0
教育活動外収入計	254,000	166,536	87,464
事業活動支出の部			
借入金等利息	2,510,000	2,466,409	43,591
その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出計	2,510,000	2,466,409	43,591
特 別 収 支			
事業活動収入の部			
資産売却差額	0	0	0
その他の特別収入	7,230,000	7,203,219	26,781
特別収入計	7,230,000	7,203,219	26,781
事業活動支出の部			
資産処分差額	0	2,196,005	△2,196,005
その他の特別支出	351,000	1,326,462	△975,462
特別支出計	351,000	3,522,467	△3,171,467
基本金組入前当年度収支差額	△90,516,000	△6,254,440	△84,261,560
基本金組入額合計	△129,937,900	△144,924,588	14,986,688
当年度収支差額	△220,453,900	△151,179,028	△69,274,872
前年度繰越収支差額	△3,008,999,036	△3,008,999,036	0
翌年度繰越収支差額	△3,229,452,936	△3,160,178,064	△69,274,872

監査報告書

平成30年5月15日

学校法人京都西山学園

理事会 御中
評議員会 御中

監事 島田 忠



監事 八田 聖司



私たち京都西山学園の監事は、私立学校法第37条第3項及び学校法人京都西山学園寄附行為第14条の規定に基づき、平成29年度（平成29年4月1日より平成30年3月31日まで）の学校法人の業務及び財産の状況について監査を行ないましたので、以下のとおり報告いたします。

1 監査の方法の概要

理事会及び評議員会に出席するほか、定期監査や随時監査を実施し、学園関係者から業務の報告を受け、重要な決裁書類等を閲覧するなど、業務及び財産の状況を調査し、計算書類について検討を加えました。

また、私立学校振興助成法第14条第3項の規定に基づき、学校法人京都西山学園の監査を行なった会計監査人（市田浩三会計事務所）と連携をとり、計算書類等につき検討を加えました。

2 監査の結果

- (1) 学校法人の業務に関する決定及び執行はおおむね適切であり、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実は認められません。
- (2) 学校法人の財産に関する不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実は認められません。
- (3) 財産目録、計算書類（資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表）は会計帳簿の記載と合致し、平成30年3月31日現在の財産状態及び同日を以って終了する会計年度の経営状態を適正に表示しているものと認めました。

平成29年度 京都西山短期大学事業報告書

1. 学生募集及び卒業生の進路状況

(1) 学生数の状況

過去3年間の入学者数・在籍者数は次の通りである。

各年度 5月1日現在

平成28年度

	志願者数	入学者数	(内 西山高)	在籍者数	別科生
仏教学専攻	43	41	2	89	60
仏教保育専攻	30	29	21	62	
計	73	70	23	151	

平成29年度

	志願者数	入学者数	(内 西山高)	在籍者数	別科生
仏教学専攻	64	58	8	97	73
仏教保育専攻	38	38	29	68	
計	102	96	37	165	

平成30年度

	志願者数	入学者数	(内 西山高)	在籍者数	別科生
仏教学専攻	72	72	3	120	103
仏教保育専攻	23	22	13	60	
計	95	94	16	180	

(2) 進路の状況

平成29年度に卒業・修了した学生数は、仏教学専攻32名と仏教保育専攻27名の計59名と、別科生63名であった。各専攻等の進路状況は次の通りである。

仏教学専攻

進学	10
就職	14
その他	8

進学先

大学 京都情報大学院大学 7名
 京都光華女子大学 1名
 龍谷大学国際文化学部国際文化学科 1名
 龍谷大学文学部仏教学科 1名

就職先

一般企業 (株)西利、西川ローズサービス(株)、亀岡ゴルフクラブ、(株)喜和ホールディングス、(株)YTフーズ、(株)CYJ、美速通日本(株) 2名

宗教法人 法然寺

仏教保育専攻

幼稚園	2
保育園	16
認定こども園	5
児童福祉	2
一般企業	1
その他	1

就職先

幼稚園 保育園

めぐみ幼稚園、洛西せいか幼稚園

朱七保育園、山ノ本保育園、柳辻保育園、友愛保育園、華月つばさ保育園、わかば保育園、あひるが丘保育園2名、つわぶき園、まごころ保育園、紫野保育園、あさひ保育園2名、今里保育園、みどり保育園、松井ヶ丘保育園

認定こども園 大原野こども園、岩屋こども園アカンパニ、登りこども園、ひいらぎこども園、端山の丘こども園

福祉施設 平安徳義会、聖ヨハネ学園

一般企業 (株)エイジェック

別科(日本語専修課程)

大学院	2
大学	2
短期大学	47
その他	12

進学先

大学院 神戸市外国語大学大学院、和歌山大学研究生

大学 花園大学、京都情報大学院大学

短期大学 京都西山短期大学 47名

2. 平成29年度の事業は次の事業計画と重点項目に基づき行った。

- A. 経営改善計画への取り組み
- B. 教学、指導改善への取り組み
- C. 留学生の受け入れと教育指導対応
- D. 学内教育施設、環境整備への取り組み

A. 経営改善計画への取り組み

① 第三者評価への対応

短大運営において、7年に1度評価を受けることが義務付けられている第二期の「第三者評価」が、平成29年10月2日、3日、4日に短期大学基準協会の短期大学評価員のもと、本学園理事長、学長、教職員により実施された。

結果として、平成30年3月9日付で短期大学基準協会より「協会の定める短期大学評価基準を満たしている」として「適格」認定評価を受けた。

この第三者評価においての総括として、次の事項について今後の課題として取り組むよう指摘された。

。

(1) シラバス(講義概要)について

「シラバスには学習成果として到達目標を明示しているが、授業の概要・ねらい・到達目標・授業計画・注意事項などと複数の項目を一緒に記述する様式になっているので、項目を再検討して様式を整えたとともに、記述内容を確認するシステムを構築されたい。」

(2)3つのポリシーについて

「学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受け入れの方針は短期大学として定め、それを各学科・専攻課程の専門性を踏まえて示し、ホームページ等で公開している。しかし、抽象的な記述にとどまっている。今後は具体的で一体性・整合性のあるものを策定する必要がある。」

(3)定員充足について

「収容定員充足率は第一評価機関において指摘されて改善に取り組み、全体では回復傾向にあり平成29年度で82.5%になるが、仏教学科仏教保育専攻の収容定員充足率は60%台で推移しており、平成29年度においても68%となっている。さらに改善が望まれる。」

(4)自己点検評価報告書の公表について

「平成23年度に短期大学基準協会の第三者評価を受けており、平成24年度には正眼短期大学との相互評価も行っている。なお、自己点検・評価報告書は、前回の第三者評価時以降公表されていないので、その定期的な公表が望まれる。」

上記の指摘を受け、(1)シラバス、(2)3つのポリシーについては、関係学内委員会、教授会において対応、改善策をとりまとめ平成30年度以降のシラバスや学生便覧、ホームページ等で学内外に周知を図ることとしている。

(3)の定員充足については、学生募集の最も大きな課題であり、入試委員会、仏教保育専攻会議を中心として、今までの高校訪問、オープンキャンパス等の募集活動、広報を見直し対応策を実施し、定員の獲得を図ることとしている。

(4)の自己点検・評価報告書については、今回評価を受けた第三者評価報告書を作成し、西山学園法人役員、教職員、関係大学等に、又、ホームページに公表することとしている。

② 学生定員の確保について

経営計画の最大の課題としている学生定員の確保については、前述「学生数の状況」の通り、平成29年度の学生募集の実績は総定員200名に対し、平成30年度は94名の1回生を迎え、180名(5月1日付)の定員比90%となり、前年度の165名定員比82.5%を上回る実績となった。

又、日本語専修課程である別科生(定員100名)も、平成29年度の73名が、平成30年度は103名となり、平成29年度の63名の修了生うち47名の修了生が平成30年度国際経営コースに入学した。

B. 教学、指導改善への取り組み

平成29年度は、「マーケティング入門」「観光学Ⅰ・Ⅱ」「国際商務概論」を新設し、平成27年度に国際教育コースより改編した国際経営コースの授業科目の整備が完了した。

平成30年度は、特に教職課程再課程認定(平成30年4月1日において免許状の所要資格を取得させるための課程として認定を受けている教職課程が、平成31年4月以降も引き続き教職課程を有するための課程認定)申請のため、保育幼児教育コースのカリキュラムの検討を行った。その結果、現行のままほぼ変更無しとなったが、新課程移行に向け引き続き検討を行う。

C. 留学生の受け入れと教育指導の対応

日本語能力向上に対する学生指導においては、課外での自習班の設置や模擬試験の実施など、7月及び12月の日本語能力試験に取り組み、入学後に受験し合格した者の割合が、前年度比で春季4%、秋季0.8%増加した。

D. 学内教育施設、環境整備への取り組み

短大耐震工事対象校舎への対応については、平成35年度以降の中長期事業計画として取り組むこととしている。

平成29年度は限られた予算の中で、述誠館照明設備、門柱の改修等の整備事業を行った。